

第3回化学放射線治療科学研究会

主催：化学放射線治療科学研究会

東京大学大学院工学系研究科附属原子力工学研究施設

共催：日本原子力学会加速器・ビーム科学部会

茨城県サイエンスフロンティア計画「小型電子ライナック医療応用研究会」

日時：平成17年2月12日

会場：東大病院入院棟A15階大会議室

時節益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて標記研究会ですが、放射線医療と化学医療の融合と、周辺の諸々の課題を横断的に議論できる機会として平成15年発足させ、ここまで第1回平成15年12月15、16日東大病院講堂にて、第2回を平成16年7月24、25日に、また8月3日東京ビッグサイトで市民講座「進化するがん治療」を企画・実行して参りました。ここまでの議論の中で共通してその必要性が重視されたのは放射線医療界人材・医学物理士の育成であります。次世代の放射線医療加速器の諸課題を議論する数多の委員会でもその課題が上がっております。ご承知のようにアメリカではこの15年に理工系大学院出身の **medical physicist** が5000人程育成され、臨床現場で治療計画立案・安全対策の業務をこなしております。一方新たに放射線治療品質管理士を制定させ、定期検査も実行され、高品質な機関の保険点数がアップされるなどの行政の動きも報道されております。しかしながらここまで、教育機関である大学からその声が上がらずじまいでありました。折りしも東大において原子力教育・研究組織の改変が実行され、原子力専攻（専門職大学院）（東海村）と原子力国際専攻（本郷）が平成17年4月に新設され、後方で医学物理教育コースが設置されることになりました。この動きを1大学に留めることなく、複数の大学と研究機関でネットワークを組み、広げていければと考えております。本研究会幹事会メンバで協議し、関連ある大学・研究機関の先生方から人材育成につきそれぞれの状況をご説明いただき、またアメリカで一線でご活躍の医学物理士とベンチャービジネスの方をお招きし、先行するアメリカの情勢をトピックスとして取り上げ、オープンで議論できる機会を設けることといたしました。なお本研究会は平成16、17年度茨城県サイエンスフロンティア計画「小型電子ライナック医療応用研究会」も兼ねて運営させていただいております。

放射線医療の新しい人材育成と普及を議論する場に是非ご出席していただきたく、ご案内申し上げます。

東京大学大学院工学系研究科附属原子力工学研究施設 上坂 充
東京大学医学部附属病院放射線医学教室 中川 恵一

**** プログラム ****

開会挨拶

座長：石井慶造（東北大学）

9：30－10：15

遠藤真広（放射線医学総合研究所）

「放射線治療品質管理士と医学物理士」

10：15－10：45

上坂 充（東京大学）

「東京大学等における医学物理教育計画」

座長：鬼柳善明（北海道大学）

10：45－11：30

中野隆史（群馬大学大学院腫瘍放射線学教室）

「群馬大学における重粒子線治療装置の建設計画」

11：30－11：45

田中良明（日本大学医学部放射線医学教室）

「名古屋における民間活力による重粒子線治療施設設立プロジェクト」

11：45－12：00

中川恵一（東京大学）

「Heidleberg+GSI+Siemens による粒子線治療装置」

座長：中川恵一（東京大学）

12：00－12：30

パネルディスカッション 一人材育成の大学・研究機関協力について

12：30－13：30

昼食

座長：上坂 充（東京大学）

13：30－14：30

渡辺洋一（コロンビア大学病院放射線科医学物理士）

「アメリカにおける医学物理—教育・臨床—」

14：30－15：30

Dr.John Ford（RAD-TECHNOLOGY Co.Ltd）

「アメリカにおける放射線医療ビジネス」

座長：野田 章（京都大学）

15：30－16：30

田辺英二（エーイーティージャパン）

「新しい定位照射リニアックによるビジネス展開」

16：30－18：00

懇親会